

**平成 29 年度岡山市市民協働推進モデル事業
最終評価表**

実施団体	一般社団法人ぐるーん		
協働部署	こども総合相談所		
記入日	2018 年 3 月 8 日		

1. 事業の目標と結果

事業の目標	目標に対する結果	結果の自己分析
事業提案書に記載された「期待する事業成果・目標値等」または事業を通じて意識されていた目標を一枠に一項目ずつご記入ください。	「成果・目標値等」に対する結果をご記入ください。	「目標に対する結果」に至った要因や工夫されたこと、うまくいかなかったことなどをご記入ください。
里親制度の認知度の現状把握と認知度アップ	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者が数万人規模の子育てイベントでブース出展し 300 名にアンケート調査を実施。啓発パンフレットを配布し、里親制度への認知度を高めた。 ・学習会、里親フォーラムを実施し、実施後のアンケートで里親制度への理解が深まったことが示唆された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に当該事業への理解者を募り、協力体制を構築してきたことによりブース出展やアンケート調査につながった。 ・どの事業イベントに関しても、ボランティアメンバーの層の厚みが事業実施を支えた。 ・アンケートを分析したものを今後の協働事業にも活かしていく。
養育スキル獲得のための機会の設定とその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設にて、子ども達とふれあうワークショップ（花育・模型・鍵盤ハーモニカ）を13回開催し、自由に表現し、先生や施設職員以外の大人との関わる機会を多く持った。 ・社会的養護の当事者や里親の声を聴くフォーラムを1回、勉強会を2回開催し、里親になった場合に直面するであろう課題について学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの信頼と実績により、児童養護施設での継続実施が可能になり、多彩な講師の参画により事業の質の向上にもつながった。 ・ワークショップ後の児童養護施設職員との振り返りや子ども達の変化についてもっと共有し、今後活かしていきたい。 ・児童養護施設だけでなく、里親や里子に関わる学生、専門家達との連携が拡大した。
里親登録者数と偏在の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・里親登録が少ない地域で、DVD 上映会を 2 回実施し、里親制度の説明を行い理解者の増加に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里親登録者数は増えたが偏在は解消されたとは言い難い。そのことを十分理解した上で、あきらめず粘り強く、活動を続けていく必要がある。 ・里親登録者への登録後の連絡が不十分なので今後改善していきたい。

2. 協働の基本原則に基づくチェックリスト

協働の原則	チェック(できたものに☑)	指標(※指標の番号が大きくなるほど協働が進んでいる状態を表します。)
相互理解の原則	☑	① 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を明文化した
	☑	② 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を果たした
	☑	③ 実施団体のミッションを理解していた(協働部署が回答)
	☑	④ 岡山市(協働部署)の方針や計画を理解していた(実施団体が回答)
	☑	⑤ 実施団体と協働部署のそれぞれの強みが発揮され、弱みが補われていた
目的共有の原則	☑	① 実施団体と協働部署が事業のスケジュールを把握していた
	☑	② 実施団体と協働部署の双方の合意によって事業目標が決定されていた
	☑	③ 実施団体と協働部署が事業の成果・課題を定期的に共有していた
	☑	④ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況を共有していた
	☑	⑤ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況と現状とのギャップを共有していた
対等の原則	☑	① 双方の合意によって役割分担が図られていた
	☑	② 実施団体の意思・意見が尊重されていた(実施団体が回答)
	☑	③ 協働部署の意思・意見が尊重されていた(協働部署が回答)
	☑	④ 実施団体のみに役割や責任が集中していなかった(実施団体が回答)
	☑	⑤ 協働部署のみに役割や責任が集中していなかった(協働部署が回答)
自主性及び自立性尊重の原則	☑	① 実施団体と協働部署が積極的に意思表示をしていた
	☑	② 事業またはその他の意思決定において実施団体に不当に干渉されなかった(協働部署が回答)
	☑	③ 事業またはその他の意思決定において協働部署に不当に干渉されなかった(実施団体が回答)
	☑	④ 事業またはその他の意思決定において実施団体に依存されなかった(協働部署が回答)
	☑	⑤ 事業またはその他の意思決定において協働部署に依存されなかった(実施団体が回答)
公開の原則	☑	① 実施団体と協働部署間で事業の進捗状況や予算の執行状況が随時共有されていた
	☑	② 議事録やイベントごとの報告書が作成され、実施団体と協働部署で共有されていた
	☑	③ 必要に応じて実施団体と協働部署以外の第三者の助言を仰いでいた
	☑	④ 事業の案内が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた
	☑	⑤ 事業の結果が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた